

横浜市野島青少年研修センター

## 海プログラム実施(いかだ作り)について

### ■概要

実施時期	4月1日～10月31日
対象	小学3年～大人
定員	20～160人
時間	～80人 3時間 ※40人ずつ交代で実施 ～160人 6時間 ※間に昼食をはさむ ※乗艇時間は1ローテーション20～30分程度 ※時間は、着替えや準備体操、説明、片づけ等を含む。
場所	野島海岸・野島水路 ※天候によって変更有
費用	1000円
その他	1艇最大8人まで乗艇可能

### ■安全対策

◎当センターは以下の基準に則り海活動(いかだ作り)の指導に当たります。

- ・現場水域に専従の監視員を配置し、監視にあたる。
- ・いかだ作り体験活動(以下「活動」という。)中、現場を通過する船舶のある時は、活動を中断し、護岸に寄る等退避し、船舶の通行帯を確保する。
- ・活動中は、港則法、海上衝突予防法の規定を遵守する。
- ・通航する船舶に支障がある場合は活動を中断する。
- ・夜間はいかだ作り体験は実施しない。
- ・活動開始前には、いかだ作り体験の始業点検を実施する。
- ・活動中、流出のおそれがあるものには、所有者名を表示する。
- ・活動中、活動用資機材等の流出等があった場合は、発見回収に努める。
- ・活動を担当する当センター職員(以下「活動担当職員」という。)は、気象情報、特に注意報等の発令に留意し、当センターが定める実施判断基準に基づき、活動の中止を判断をする。なお、実施判断基準以下であっても状況に応じて中止する。  
※詳細『実施判断基準』参照
- ・活動中の事故その他異常事態が発生した場合及び緊急時は、別添「緊急時連絡系統図」により関係先へ連絡する。
- ・陸上監視1人(全体監視担当者)および海上監視1人を配置する。
- ・各いかだ班担当者1～5人を配置する。
- ・引率者(全体監視担当者、各いかだ班担当者)、活動担当職員、及び活動参加者は、救命胴衣(ライフジャケット)を着用する。

## ■実施判断基準

(1) 適用場所：野島海岸、野島水路

(2) 可否判断基準（体験実施前）

①可否の判断時期：原則実施1時間前

※判断する時は風速（10分間）、気温、WBGT(暑さ指数)を計測し、データを保存する。

※活動担当職員がデータ及び現場の状況を確認し判断する。

※前日判断も可。（横浜地方気象台16：00発表分で判断）

②可否基準

平均風速	4.5m/sec以上
瞬間風速	10分間に10m/sec以上
気温	摂氏18度以下
WBGT	30度以上 ※28度以上は実施するが、熱中症の対策をするように伝える
水面	白波が立つ状態
警報	警報が1つでも発表されている場合
注意報	強風、波浪の内、1つでも発表されている場合 ※その他の注意報に関しては、現場に出て状況判断する。

(3) 可否判断基準（体験実施時）

※体験時は1時間おきに風速計のデータを確認し、保存する。

風	平均風速が上昇傾向にあり、4.5m/sec以上になる恐れのある時は中止する
瞬間風速	10m/sec以上は中止する
気温	摂氏18度以下になった時は中止する
水面	白波が立つ状態になる時は中止する
WBGT	30度以上になった時は中止する ※28度以上は実施するが、熱中症の対策をするように伝える。
雨	雨が強くなり、気温が低く体温低下の恐れがある時は中止する
雷	雷鳴を聞いたら中止し、当センターに退避する
警報	警報が1つでも発表されたら中止する
注意報	強風、波浪注意報の1つでも発表されたら中止する

※その他の状況による活動中止判断基準

- ・局所的に短時間で気象が悪化すると予想される時
- ・台風接近、または通過後の気象条件が不良の時
- ・竜巻に関する情報が発令されている時
- ・記録的短時間大雨情報が発表された時
- ・地震や津波に関する情報が発表されている、または発生が予想される時
- ・活動団体により中止の申し入れがあった時
- ・その他、活動に不適切または不可能と当センター職員が判断した時

## 【事前準備】

### ■服装と持ち物

- ・別紙『海で遊ぶ際の服装や持ち物』を配布し、海活動にふさわしい服装の案内をする。

### ■申込・保険・時程表

- ・「体験プログラム申込書」と「いかだ作り配置図」に人数や時間、担当者などの必要事項を記入の上、実施1か月前までに申込み。
- ・いかだに適用する保険への加入（必須）。加入していない場合は乗艇不可。  
※当センターで別途保険に加入可。
- ・当センター職員と打ち合わせをし、いかだ作り体験の活動時間や艇数、人員配置等を決める。  
※下見や打ち合わせの申し込みは事前に電話にて予約が必要。

### ■事前学習

- ・当センターホームページの「PFDの着方」「いかだの乗り降り」「いかだの組み立て方」「いかだのこぎ方」を確認し、体験実施に必要な内容を学んでおく。

## 【実施の流れ】

### ■準備(30分)

- ・引率者（2人以上）は当センター職員と協力し、いかだの材料セットの準備や集合場所への運搬を行う。

### ■移動・説明(45分)

- ・活動できる服装で集合する。  
集合場所は、当センター職員と打合せの上決定する。
- ・グループごとに材料を積んだ台車と救命胴衣（ライフジャケット）を、当センター職員の誘導でいかだ作り体験をする場所へ運搬、移動する。
- ・グループごとに整列して並び、引率者がいかだの作り方や注意点等の説明をする。

### ■いかだ作り開始

- ・いかだを作る。
- ・いかだを作り終わったら、引率者がパドルの使い方を説明する。
- ・救命胴衣（ライフジャケット）を着用し、引率者がチェックをする。
- ・作ったいかだを協力し海岸まで運ぶ。

### ■実施(30分～60分)

- ・いかだにロープ（命綱）を結び、各いかだ班担当引率者がロープを持ち実施する。  
※引率者が乗り降りを補助し、水上でパドル練習をする。
- ・前半の班が体験を行う。
- ・後半の班はこの間、活動付近で待機する。
- ・前半の体験が終わり次第、後半の体験を行う。

## ■片づけ・移動(30分)

- ・終了時間が来たら、いかだを作った場所に運び、解体する。
- ・材料を当センター職員の指示に従って戻す。
- ・材料を台車に積み、当センターへ運搬、移動する。
- ・当センターに移動し、救命胴衣（ライフジャケット）を洗う。
- ・足を洗って、着替える。

## ■材料等洗浄（30分）

- ・引率者（2人以上）は当センター職員と協力し、いかだ材料、パドル、ロープなどを洗浄する。

## 【引率者】

### ◎実施する上で引率者に必ず守ってもらうルール

#### ■安全のために

- ①引率者がいかだに乗ることは原則できない。
- ②参加者の体調の確認・管理を必ず行い、少しでも体調の優れない者がいた場合は活動に参加させない。（ケガも同様）
- ③救命胴衣（ライフジャケット）を全員必ず着用する。着用していない人は海に入らない。（引率者も含む）
- ④各班担当者（引率者）の人数はいかだ1艇につき最低1人を必ずつける。
- ⑤いかだに結んだロープはいかだが流されないよう、岸で待機している各班担当者（引率者）が必ず持つ。また、ロープが足に絡む恐れがあるため、ロープを持つ人は海に入らない。
- ⑥活動全体の様子や子どもたちの動きに気を配り、漁船の通行や危険な動きが見られた場合など必要に応じて指示をする全体監視役の引率者を各班担当者とは別に追加配置する。
- ⑦活動中、活動用資材等の流失等があった場合は、発見回収に努める。
- ⑧実施前と後の人数確認を必ず行う。また、人数確認を必ず行い、人数が合ったら当センター職員に報告をする。人数が合わない場合は再度数え直し、それでも合わない場合は早急に当センター職員に報告する。
- ⑨活動担当職員と連携して安全管理を行い、職員から活動中止の指示があった場合には速やかに活動を終了させる。